

写真で
振り返る

暮らしのあんやたん 131

ジェフ沖縄株式会社 後編

※ 読者プレゼントあります。
下記をご覧になり、どしどしご応募下さい。

◆チャレンジ精神で駆け抜け成長企業へ

沖縄らしいメニューの沖縄ファストフード店「ジェフ沖縄株式会社」は、南城市玉城出身の故・喜名民雄さん（享年73、2019年没）が1972（昭和47）年にエーアンドダブリュ与那原合資会社を設立したことから始まっている。民雄さんはファストフード事業を独自で経営したいという思いがあり、86（昭和61）年に独立。沖縄にこだわった「ジェフ沖縄株式会社」を設立した。

90（平成2）年前後、社会はバブル崩壊へ突入していった。市場が縮小し、競争が増えていった。

そんな中、民雄さんは試行錯誤を重ね、ジェフだけのオリジナルメニューを開発。93（平成5）年に「ゴーヤーバーガー」を、95（平成7）年5月にポークを加えた「ぬーやるバーガー」を発売した。インパクトのある商品名にしたいと考えた民雄さんが「ぬーやるバーガー」を提案。沖縄らしいユニークなバーガーは、ネーミングの楽しさも相まって多くの人に愛される看板商品に育っていった。

6人兄弟の二男だった民雄さんは、チャレンジ精神が旺盛だった。93（平成5）年、事業の拡充を図るために書店・レンタル事業の全国チェーン「TSUTAYA」のフランチャイズに参加。同年7月にTSUTAYA坂田店を、95（平成7）年12月にはTSUTAYA与那原店を開店した。「ジェフ」と一体となった店舗設計にし、集客の相乗効果を生んだ。

2000（平成12）年頃、日本でも腸管出血性大腸菌（O157）や牛海綿状脳症（BSE）などの感染が確認され、連日ニュースで取りざたされると牛肉を食べる人がほとんどいなくなった。民雄さんは、豚肉100パーセントのパーティにすぐ切り替えた。社会情勢に応じて独自のアイデアですぐ対応できるフットワークの軽さも強みとなった。当時、新聞社から取材も受けたという。

02（平成14）年3月には北海道に本部を持つ札幌ラーメンの「ラーメンさんばち」のフランチャイズとなり、ラーメンさんばち西原坂田店を、同年10月にラーメンさんばち豊見城店を開店した。

ファストフード店だけでなく、他業種も展開しながら会社は成長していった。が、コンビニや飲食チェーン店が急増したことから客入りが落ちていくと、店舗数を減らす経営努力を行っていった。（右下へ続く）



1階にジェフ与那原店、2階にTSUTAYA与那原店とジェフ沖縄株式会社事務所を併設＝2019年11月9日



2代目の喜名史弥社長。県認定「おきなわ食材の店」でもあるジェフ。沖縄県の食材で沖縄らしいメニューを開発に力を入れている。期間限定で発売された「やんちキ」や「ぬーやるバーガー」も好評だった。ジェフにしかできないもの、常にチャレンジしていきたいという。

◆先代の教えを胸に奮闘

2019（平成31）年4月に民雄さんが病気で急逝し、長男の史弥さん（44歳）が2代目となった。史弥さんは「会社はお客様や取引先をはじめ、従業員にも活かされているという意識を大切にしていた父の思いも受け継いでいきたい」と語る。

史弥さんは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月中旬から5月初め頃まで順次全店舗を臨時休業した。先代の「（経営者は）従業員を支える存在でないとダメだ」と言っていた言葉を胸に、約150人の従業員の給与を確保した上で踏み切っている。

「働く人にとってもいい会社であれという父の教えを胸に、ジェフのブランドをしっかりと守り続け、より多くの人にジェフを知っていただけるよう頑張っていきます」と微笑んだ。

ジェフ豊見城店



ジェフサンライズなは店



明るい店内＝ジェフ与那原店、2012年2月9日



県産の若鶏を使用し、お店で手作りしているフライドチキン



看板メニュー「ぬーやるバーガー」



いろいろな味が楽しめるミニバーガーも人気

★★★読者プレゼント★★★

ジェフ沖縄株式会社（本社/与那原町字上与那原467、電話/098-944-2312）より、ファストフード店ジェフ3店舗（与那原店、豊見城店、サンライズなは店）で使える「ぬーやるバーガー」と「ゴーヤーバーガー」のペアチケットを読者の中から5名様にプレゼント。ご希望の方は、住所、氏名、年齢、電話番号、「ウチナー昔たび」の感想をお書きの上、郵便はがきで〒900-8678 那覇市久茂地2-2-2 沖縄タイムス社読者局企画管理部「ウチナー昔たびジェフ沖縄後編プレゼント係」もしくはeメールhanbaikikaku@okinawatimes.co.jpあて同内容を記載の上、10月31日必着でお送り下さい。当選発表は沖縄タイムス販売店からの発送をもってかえさせていただきます。

発行：沖縄タイムス販売店
電話：098-860-3565（事務局）
制作者：玉那覇展江（ミニコミ紙担当記者）